

●研修実績（令和2年度）

Webによる新しい研修様式を取り入れ、受講者は大幅に増えました。講義形式の研修は効率的・効果的な実施のためWeb研修を中心とし、グループワークや実技研修は課題を改善し、いっそう充実するように努めます。

年間研修数	82本	集合研修 2本 Web研修 80本 (内訳：動画視聴 47本、Zoom 25本、Zoom+動画 7本、集合+動画 1本)	
年間研修日数	125日	年間受講者数	4,277人/令和元年度2,161人
動画視聴 受講者数	3,178人/平均67.6人	Zoom+動画視聴 受講者数	203人/平均29人
Zoom 受講者数	801人/平均32人	集合+動画視聴 受講者数	43人/平均4.3人

●研修動画（YouTube）の視聴方法について

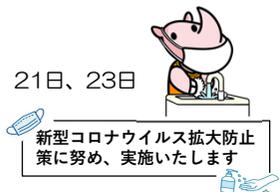
動画視聴研修は、受講者のご都合に合わせて、視聴できます。

- ①回数を分けて視聴することができます。
- ②視聴開始日と最終日以外は24時間視聴が可能です。
- ③再生速度を遅くする、または、速くする、どちらも調整ができます。



●令和3年度「夏休み小・中・高校生福祉体験」実施します！！

- ①内容 「福祉のしごと」「障害のある方」の動画視聴や車椅子・介護ベットポッチャなどの体験を通して福祉の理解を深めます。
- ②対象 小学3～6年生親子、中学生、高校生
- ③日時 7月31日、8月2日、7日、9日、20日、21日、23日
午前、午後2回実施（1回2時間程度）
- ④場所 世田谷区福祉人材育成・研修センター
- ⑤募集 7月初旬に区立小中学校等チラシ配付、「区のお知らせ」で募集。



編集後記

日曜日の朝。「ねえ、本読み聞いて」小学4年生の次女は、毎日、宿題で国語の教科書を音読する。それを聞いて、チェックシートにサインをする。かみさんが担当しているが、たまにお鉢が回ってくる。習いたての物語は、駆け足になったり、足踏みしたり。時には、句点を駆け抜け、読点ですっころぶ。それが日を重ねると、歩幅は一定になり、心地よいリズムを刻みます。ふと目を開ける。教科書に向けるまなざし。ほほが緩む。笑ったり、泣いたり、すねたり、笑わせたり。あんなに忙しい子だったのにな。またほほが緩む。眩しくなってきた。また、目を閉じた。

発行：世田谷区福祉人材育成・研修センター
〒156-0043世田谷区松原6-37-10
世田谷区立保健医療福祉総合プラザ1階
電話：03-6379-4280
FAX：03-6379-4281
HP：https://www.setagaya-jinzai.jp/



世田谷区福祉人材育成・研修センター

だよ
じんざいくん便り

令和3年6月 第7号



誰もが住みやすい地域づくりに向けて

～世田谷区で目指す これからの福祉～

中村 秀一氏 国際医療福祉大学大学院教授
医療介護福祉政策研究フォーラム理事長
世田谷区保健医療福祉審議会会長



Web研修
(申込不要)
令和3年5月10日～
令和4年3月31日

I.福祉の現在 II.直面する課題 III.進むべき方向 IV.2040年に向けて V.世田谷の福祉 VI.コロナ禍を超えて の6本の柱で幅広くご講義いただきました。研修センターホームページで、令和4年3月31日まで視聴いただけます。令和3年7月31日までに研修報告を入力いただくと、研修センターホームページで研修受講事業所として公表いたします。

II.直面する課題…福祉を取り巻く状況

- ①少子高齢化と人口減少
1989年(H元) 1.57ショック
1990年(H2) 高齢化率 12.1%
2008年(H20) 人口のピーク(1280万人)
2020年(R2) 人口12596万人 高齢化率28.7%
- ②家族(世帯)の容容
単身高齢者、夫婦のみ高齢者世帯の増加
- ③経済の低迷と雇用の変化
平均所得金額の年次推移、非正規雇用労働者
- ④厳しい財政状況(国の2021年度予算)
(歳出) 社会保障費35兆8421億円(33.6%)
一般歳出66兆9020億円の53.6%
(歳入) 税収約57兆円(約40%は公債金に依存)
一般会計：歳出が税収を上回り、差を公債(建築公債、特例公債)で埋めている。

III.進むべき方向 介護保険制度のねらい

- ①介護保険の20年
- ②地域包括ケアシステム
住まい、医療、介護、介護予防、日常生活の支援
- ③地域共生社会の実現
○高齢者のみではなく、全世代を対象に
○障害別などにこだわらず、制度の縦割りを超える。
○複合的、複雑な課題に対応する。
○総合相談など地域のプラットフォームを創る。
○狭い「福祉」の領域にとどまらず、広く地域の生活課題に対処する。

IV.2040年に向けて

- ①医療福祉の人材の確保が課題
- ②これからの社会保障
人口減少が課題、高齢期集中型から全世代対応型への転換、ニーズの複雑化・複合化→個別的・伴奏型の対応、「病院完結型」から「地域完結型」へ、「地域包括ケア」「地域共生社会」という目標、狭い「福祉」から「街づくり」へ

VI.新型コロナウイルス感染症の蔓延について

- 今回のパンデミックにより、社会が抱えている問題があらわになった。
- ポストコロナに向けて、改革を加速させる必要がある。
- 介護分野においてもテクノロジーの活用、業務効率化、業務負担の軽減など、従来にも増して取り組みの強化が必要となる。
- ポストコロナ社会は、コロナ以前の社会にそのまま復帰することはないことに留意する必要がある。



誰もが住みやすい地域づくりに向けて

～介護予防・重度化防止に 今から取り組むこと～

世田谷区福祉人材育成・研修センター長 瓜生 律子
世田谷区では2030年 超高齢社会(高齢化率21%)をむかえます。
誰もが住みやすい地域社会を区民・事業者・行政の力をあわせてつくみましょう。
令和4年3月31日まで視聴いただけます。研修報告の入力は令和3年7月31日までお願いします。



Web研修
(申込不要)
令和3年6月14日～
令和4年3月31日

研修ピックアップ [Web研修]

認知症の緩和研修（日本版BPSDケアプログラム）

研修センターが実施している認知症ケア研修は、そのアプローチ内容からいくつかの種類があります。その中でも認知症の緩和研修「**日本版BPSDケアプログラム**」は、オンラインでのシステムをケアに直接活用していくことで認知症ケアの質を高め、新しく科学的なアプローチ方法を学ぶことのできる研修となります。今年度も前期と後期の2タームに分けて、それぞれ3日制で、e-ラーニングでの研修とZoomでの研修を合わせて実施しています。今回はこの研修の内容の一部を紹介します。

BPSDケアプログラムとは？

認知症の人の行動心理症状（BPSD）を意味ある行動としてとらえ、その症状を客観的に把握できるようにする（見える化する）オンラインシステムを東京都と東京都医学総合研究所が開発しました。このオンラインシステムを介護の現場で活用して、認知症の人の行動心理症状の背景にあるニーズをチームで分析して、ケアの計画を実行していく流れをサポートするプログラムのことを、**BPSDケアプログラム**と言います。

研修のメニュー

- ① 「BPSDケアプログラム」について約1か月間のe-ラーニングによる自主学習
- ② Zoomによる2日間のフォローアップ研修への参加

BPSDケアプログラムの具体的なプロセスは？

例えば、問題となっている認知症の人の行動心理症状に関して、「他人が自分の物を盗んでいると信じているか？」「突然怒りを爆発させるか？」など、約90項目の質問にチームで『はい』『いいえ』で答えてシステムに入力していきます。入力後、「妄想」「興奮」など12項目について重症度が点数化されます。点数が高い項目から、その人の行動の背景や求めている支援を話し合い、実践していきます。この流れがケアの優先度を「見える化」する形となり、例えば「ケア時にゆっくり話しかける」など、誰でもできる具体的なケア計画を立てて、全員で統一したケアを行えることがポイントとなります。



このプログラムをe-ラーニングで学びます！

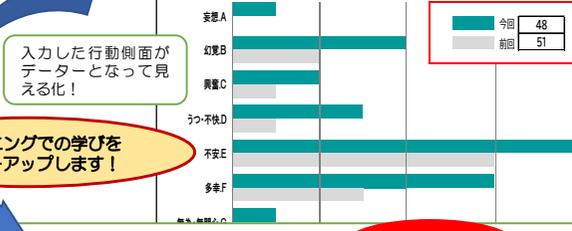
e-ラーニング研修では何をしますの？

- 認知症の行動心理症状の捉え方や、**BPSDケアプログラム**のオンラインシステムの使い方、e-ラーニングによる自主学習方式で学びます。
- 事業所や自宅のパソコンからe-ラーニング専用のWebサイトにログインして、各自のスケジュールやペースに合わせて研修を進めていくことができます。
- 練習用のオンラインシステムを使って、実際に職場の利用者情報を入力し、ケアプログラム実施の練習を行います。

ステップ 1

行動側面	頻度					重
	なし0	1	2	3	4	
A.妄想	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1
B.幻覚	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1
C.興奮	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2
D.うつ・不快	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
E.不安	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	4
F.多幸	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
G.無気味・無関心	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
H.脱抑制	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
I.暴動衝動・不安定性	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
J.異常な運動行動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
K.睡眠と夜間行動障害	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0
L.食欲減退・食料拒絶行動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0

e-ラーニングでの学びをフォローアップします！



入力した行動側面がデータとなって見える化！

フォローアップ研修では何をしますの？

e-ラーニングによる研修を修了した後は、**BPSDケアプログラム**のオンラインシステムを利用した際に感じた不安・疑問・感想・成果などを、他の受講者たちとのグループワークを通じてお互いに話し合い、共有することで、プログラムの活用方法の理解度を深めて継続的な使用につなげていきます。2日間の研修のなかで、様々な事業所や他職種の受講者の意見を聞くことができ、認知症の方への見方が変わることも有意義な研修時間となります！

ステップ 2

次回(後期)開催予告
令和3年10月25日(月)頃から募集開始(予定)です！

受講者からの感想 (アンケートより)

- 認知症の方の問題行動はその方の意思の表れであることを、関わる全ての方が理解できる方法を学べたことは大きな収穫でした。
- 利用者お1人の事をいろいろな角度から見ることの大切さを改めて感じ、利用者へ接する際の視点が変化しました。
- 事業者内で情報共有もでき、ご利用様のことを考えられる時間を設けることができました。

世田谷区認知症とともに生きる希望条例及び認知症に関する制度と動向 ～世田谷区の認知症施策を中心に～

視聴期間：令和3年6月14日～7月13日

認知症施策のこれまでとこれから ～高齢先輩国と日本を比較しながら考えてみると～

世田谷区認知症施策評価委員会委員長 大熊由紀子氏



認知症をめぐる日本人の「常識」⇒**実は、誤解**
★アタマを使っていればボケない
⇒アタマを使ったお3人も
★早期発見・早期治療が大切⇒**ケアと環境が大切**
★徘徊・暴力・弄便などの不可解な行動
⇒**了解可能な心の叫び**
★精神病院もやむをえない⇒**日本だけの「世界の非常識」**
★身体拘束は必要悪 ⇒**日本だけの「世界の非常識」**
★認知症になったら何も分からなくなる
⇒**一足先に認知症になった私たちが
すべての人たちに「認知症とともに生きる希望宣言」**

国際常識の対極にあるもの
日本の人口は世界の2%
精神科ベッドは世界の20%
1988年に世界に例のない「老人性痴呆疾患専門治療病棟」
1991年に世界に例のない「老人性痴呆疾患療養病棟」創設
もしも、他の先進諸国同様に「認知症の人を精神病院に入院させない」という政策をとれば、
入院患者の比率はベッド数64.7%になり、日本の精神病院の経営が成り立たなくなる。
氏家憲章氏 全国精神保健福祉会連合会機関誌 2016.10月号

認知症当事者ネットワークみやぎ代表理事 丹野智文さん 国連ハ「パラレルレポート」で訴え
気がついた時には、仲間が精神病院に入れられていました。私は会いに行ってみました。
認知症の症状がよくなる為に入ったかと思っていたのに誰もよくなくておらず、反対に症状が悪化してました。
表情も無表情になり、すべてをあきらめているようでした。「ここから出たい、家に帰りたい」とみんなが話をするのです。
たくさんの方と話をしてくれて気づいたことは、診断直後のサポートの仕方がおかしかったのだと思いました。当事者への支援がぜんぜんなく、家族への「**重度になってからの話**」だけなのです。だから家族は混乱してしまい、当事者の行動を制限してしまうのです。



世田谷区の認知症施策と事業 世田谷区高齢福祉部介護予防・地域支援課認知症在宅生活サポート担当職員

- 1 本人・家族の早期対応・早期支援
もの忘れチェック相談会、認知症初期集中支援チーム事業、認知症家族会、家族のための心理相談、ストレスケア講座
- 2 普及啓発認知症講演会
「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」パンフレット
認知症あしんガイドブック、認知症カフェハンドブック
- 3 地域ネットワークづくり
高齢者見守りステッカー、高齢者安心コール
- 4 認知症本人交流会 楽しく語ろうつどいの会 等

世田谷区が目指す姿

「一人ひとりの希望及び権利が尊重され、
ともに安心して自分らしく暮らせるまち、せたがや」
↓
認知症になってからも安心して暮らせるまちは、
子どもも高齢者も、障害がある人も子育てする人も
みんなが暮らしやすいやさしいまちです。
そのためには、ぜひ皆さまの力が重要です！！

世田谷区認知症とともに生きる希望条例 ～知ろう！語り合おう！一緒に動きだそう！～

世田谷区認知症施策評価委員会副委員長 永田 久美子氏



- 1) 希望条例はなぜつくられたの？
世田谷区民、約92万人。認知症の人、現在3万人以上
今後、ますます増えていく。
→認知症は、誰にとっても身近な存在。★自分事！
→今と未来のために、世田谷区全体で
総力をあげて取り組む必要がある！
- 2) 希望条例は何をめざしているの？
★全区民が自分らしく生きる
希望を持って
意思と権利が大切にされ
安心して暮らし続けられる
地域共生社会
⇒**安心して
認知症になれる
世田谷に**
- 3) 希望条例の実現のためのポイントは？

- 4) 誰が、どう進めていくの？
条例・計画は、行政や一部の人が、進めていくものでは決してありません。「認知症とともに希望を持って自分らしく生きていきたい」「安心して、このまちでともに楽しく、元気に暮らし続けたい」そう願う人たちが、声とチカラを寄せ合ってこの世田谷の地を舞台に一緒に取組んでいきましょう！
- 5) 何から始めたらいいの？
身近な地域の中で、少しずつ初めて行こう！
①希望条例ができたことを誰かに伝えよう
古い考え方を新しい考え方に変えよう
②地域の中の懇話会、アクションチームに参加しよう
仲間を募ろう 専門職、地域の方々、そして本人も

「希望計画」5つの基本方針 (2021年3月)

- ① 本人の声を聴き、本人とともに
*すべての区民が区組む時代になりました。
*ケア関係者が区民の良きモデルに…！
- ② 4つの重点テーマを掲げ、区をあげて
- ③ 小さく始めて、改善しながら、大きく広げる
- ④ 多世代・多分野の人たちが参加し、つなげるとともにつなぐ。*対話を重ねながら
- ⑤ 中長期的に世田谷の未来像をともに思い描きながら *息長く、続ける まずは3年、仲間を増やしながらかつ10年先を描きながら続ける

★ビジョンは、認知症ケアに日々取り組んでいるみなさんが目指していることと同じ。希望条例は、日々のケアを、よりよく、楽に、楽しくしていくための道標でもあります。